

# キラリ! 地域おこし協力隊

遠野に移り住み活動する「地域おこし協力隊」の活動の様子や関連イベント情報などをお伝えします。



1\_株BrewGoodに所属し、ビールの里プロジェクトに携わる上西さん  
2\_ネット販売用に地域事業者の商品を撮影  
3\_最近ではビールプロジェクトに関わる20人にインタビューした冊子も制作しました

**Q 遠野に移住した理由は?**  
遠野に来る前は、美容師である妻と東京・渋谷で美容室を経営。開業10年をきっかけに新たな挑戦をしようと決断し、地域での仕事を探していた時にビールの里プロジェクトを知りました。ここで自分の経験や技術を活かせそう、楽しそうと思い応募しました。

**Q 遠野に来てからどんな活動をしていますか?**  
日本有数のホップ生産地である遠野で、「ビールの里」プロジェクトを進めるプロデューサーとして活動しています。美大を卒業し、デザイナーとして働いていた経験を活かして、ビールの里プロジェクト関係のデザイン・制作・ブランディングを担当しています。

**「ホップとビールをきっかけに、遠野を訪れる人が増える未来へ」**  
上西 尚宏 隊員 北海道旭川市出身・49歳(2018年9月着任)

**■充実した講座内容** 講座は「土地から学ぶ」「自分を知る」「未来を描く」など複数のカテゴリーを用意。毎月10本程度、定期的に開催します。  
**■誰もが講師・学生として参加できる** 講義やイベントを企画したい、興味のある講座を受講したい、という人はお気軽にお問い合わせください。  
**■「つくる大学」学生制度** 好きな講座を毎月定額で受けられる学生制度。Commons Spaceでの飲食が割引になる他、地域内外から訪れる学生同士、また、講師と学生がつながるネットワークを整備します。  
**■講座のオンライン受講** 申し込みから受講までをインターネットで行い、オンライン受講も可能です。(オンライン受講は一部講座のみ)  
**■問い合わせ** つくる大学運営事務局  
Mail → tsukuru-univ@nextcommons.co.jp  
HP → https://note.com/tsukuru\_univ



遠野の地域資源を活用して学びましょう!  
宮本拓海 隊員

# 遠野人

★筆者 前川 さおり

遠野文化研究センター副主幹。1970年山形県生まれ。『遠野物語』に憧れ、大学卒業後に移住。遠野テレビ「遠野まつり」の実況解説でおなじみ。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、お届けしています。今回は遠野市立博物館で開催中の特別展についてです。



左から柳田國男、伊能嘉矩、佐々木喜善

博物館では、4月17日から『遠野物語』発刊110周年記念春季企画展「遠野物語が誕生した頃の遠野」を開催しています。今回は展示の見どころを紹介します。

『遠野物語』は、明治43年(1910)に発刊されました。当時、若き官僚だった柳田國男が、遠野出身の大学生・佐々木喜善から聞いた不思議な話を119話にまとめたもので、日本民俗学の古典・近代文学の名著として、多くの読者に読み継がれてきました。

佐々木喜善のほかに『遠野物語』の成立に大きな影響を与えた人がいました。その人物は、台湾人類学者の伊能嘉矩です。伊能は、慶応3年(1867)に遠野南部家に仕える武士・学者の家に生まれ、東京で人類学を学び、台湾に渡って現地調査を行い、台湾原住民を九つの種族に分類しました。



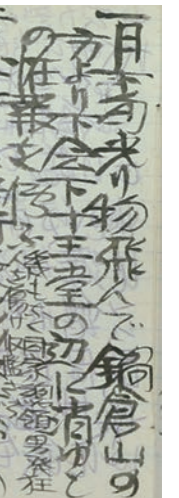
柳田から伊能へ贈られた『遠野物語』

『遠野物語』発刊の前年、明治42年(1909)に柳田國男が遠野を訪れた時に、柳田は伊能に会いに行きました。『遠野物語』に伊能の名前が出てくるのは、第92話の山神に会った鷹匠の話ですが、『遠野物語』(第60号)の中表紙には柳田國男と佐々木繁(喜善)のサインと「伊能先生ニ奉」との献辞が書かれています。このことから伊能が柳田に大きな影響を与えたことがわかります。

遠野に帰郷後の伊能は、台湾調査の原稿をまとめながら遠野の歴史・民俗研究を行い、文化財保護にも尽力

力しました。大正13年(1924)に郷土史家の鈴木重男が私設博物館「遠野郷土館」を創設し、伊能や喜善と共に郷土研究会を発足。機関紙を発行したり例会を開いたりして遠野の郷土研究をリードしました。遠野郷土館は昭和2年に火災で焼失してしまいましたが、今回の展示では当時の郷土館の姿を鮮明に残した写真を紹介しています。

伊能も『遠野物語』のような不思議な話に興味を抱いていたようで、大正12~14年(1923~1925)の重要な出来事を記した日誌には、遠野上空に現れた光り物について書かれています。これによれば、大正13年(1924)1月下旬、光り物が飛んで鍋倉山の方から会下の十王堂の辺りに消えたという情報が伝えられたと記されています。「光り物」は現在でいうところのUFO(未確認飛行物体)だったのでしょうか?



伊能の日誌。謎の「光り物」について記録されている(展示)

ほかにも江戸時代の遠野郷の村々が一目でわかる「遠野領内図」や、遠野最古のオシラサマなど、貴重な資料が展示されています。展覧会は6月28日まで開催される予定ですが、今後の開館状況については事前に電話などでお問い合わせください。

★今月のプレゼント

このコーナーへご意見・ご感想をお寄せいただいた人の中から抽選で3名様へ、令和元年遠野文化フォーラム報告書『子守唄と民謡』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想一を添え、郵送、ファクス、メールのいずれかで下記まで送付ください。  
\*締め切り 5月31日(日)

